

平成29年度第2回飛騨市公共交通会議

平成29年8月18日(金) 13:30
西庁舎3階 大会議室

【開催日時】平成29年度8月18日(金) 13:30~15:00

【開催場所】飛騨市役所 西庁舎 大会議室

【出席委員】委員25人中23名出席2名委任状

飛騨市公共交通会議設置要綱第6条4号により会議は成立

【議事次第及び結果】

司会【飛騨市総務部総務課 岡田課長】

◎あいさつ【都竹会長】

今日の協議事項は幹事会等でも議論されている。その他の部分で30年度に向けて検討事項も用意している。毎度申し上げているが、計画をしゅくしゅくと実行していくのではなく、随時見直しをしていい方向に変えていく、常に次に向けた検討していくことが大事だと思っている。今度9月議会が始まるが、決算議会であるため、新しい計画になって初めて決算がでてくるため、前に比べてどうだったか調べてもらった結果、単純にスクールバスも入れると再編前の25年度の決算と28年の決算で1,100万円余支出が増えているという結果がでた。補助金も増えているがそれ以上に出る金額も増えているため、結果としては、前より持ち出しが増えたという状況。さらに市の政策で計画には関係ないが高校の通学支援ということの差額補填約3,000万を加えると、4,100万。25年度当時より公共交通にかける予算が増えている。分けいっていくとスクールバスがあるが、法改正があり、再編があってもなくても増えた純増分があり、更に消費税のアップがこの間に行われまして、差し引くと純粋に言いますと25年度とほぼとんとんの状況です。

数字をどう捉えていくか、一番大事なことは市民の方に喜んでいただくことである。われわれは計画第一と言う事で動くのではなく、市民の皆さんに喜んでいただけるかどうかを第一に。その結果、純粋な部分ではとんとんではあるが、その中で市としての財政負担を十分見極めながら取り組んでいくのが必要な分野ではないかと考えている。

皆さんそれぞれの立場から今回の議題に関わらず将来を見通した活発な意見ご提案を頂戴できるようよろしくお願い申し上げます。

【事務局より幹事会で議論した神岡猪谷線変更の取りやめについて説明】

◎報告事項

1. 平成29年度第1回公共交通会議の議事録について <資料1 P2~6>

◎協議事項

1. 事業計画及び運行計画の変更について <資料2 P7~15>

- 事業計画の変更 山之村線 神岡東部線
- 運行計画の変更 桃源郷線 稲越線 月ヶ瀬線
宮川線 山之村線 神岡東部線

【事務局より説明】

【委員からの意見】なし

拍手多数により承認

平成29年度第2回飛騨市公共交通会議

平成29年8月18日(金) 13:30
西庁舎3階 大会議室

2. 飛騨市公共交通網形成計画の変更について

<資料3 P16~25>

【事務局より説明】

【委員からの意見】なし

拍手多数により承認

3. 自家用有償旅客運送（市町村運営有償運送（交通空白地輸送））の更新登録について

【事務局より説明】

【委員からの意見】

（委員1）他の市町の事例になるが、事故や免許系など、運行管理体制がなくなって、そういった件が最近発覚をし始めている。これを機会に今一度運行体制に不具合等がないか見直していただき、引き続き更新の方をして頂きたい。

（事務局）先日の幹事会でもそう言ったご意見も頂いている。見直させていただきながら、しっかりとした体制で臨めるようにしたい。

拍手多数により承認

4. 平成30年度地域公共交通再編推進事業（再編計画推進事業）について

<資料5 P66~67>

【事務局より説明】 計画策定団体

【委員より意見】

（委員2により補足説明と意見）

本日、飛騨市は地域交通網形成計画の改定をしました。地域交通網形成計画と言うのは全国で300件以上ありますが、飛騨市で作っている地域交通再編実施計画は全国で15件しかない。利用促進事業等への補助は、網形成計画は作ってから2年間、利用促進・事業評価について補助してくれる。再編実施計画はさらに5年間もらえる。27年度からやっているため、今年度から他ではもらえないお金がもらえる権利がある。せっかく全国15しかもらってないこの補助を、この会議できちんと議論しないで事務局だけで考えていいものか、もちろん事務局が十分考えて練られているので良いと思うがこの事業はこの会議で決めることのため、利用促進をより良くしていく為に、色々チェックしていく必要があることなど、是非積極的に意見をいただきたい。やることに補助がもらえる場合があるし対象外もあるため、今その議論をしている。

例えば、飛騨市の時刻表は複雑である。色々な所を走っていて色々ダイヤがありそれぞれ経路が違ったり行き先も違ったりとか、乗り継ぎがどうだとかこれを読みこなして使いこなせる人がどれくらいいるのか。例えばこの地区ならこの便に乗って行けますよ、とか地区ごとに作ってみるとか今の時刻表は辞書みたいなものである、全部の時刻が書いてあるので自分で調べるといものになっている。むしろ各地域で病院行くなればこれがお薦めだ、高校に通うのだったらこういう風に通える、等を作っていけば、地域に帰った時にバスを利用する方に、例えばこういう乗り方があるよとお配りできればいい。総合公共交通マップは辞書みたいなものだから目的別の時刻表など、お勧め品を見せるものをつくるのはどうか。例として言いましたから皆さんも利用促進で色々呼び掛けるとしたらこんなものがあつたらいいとか、こういうデータがあるとよりいいとか意見を言っていただくと、その

平成29年度第2回飛騨市公共交通会議

平成29年8月18日(金) 13:30
西庁舎3階 大会議室

中の半分は国がお金を出していただける制度。もちろん対象外もあるが対象外の場合は単費でやっていけばいい。やるかどうかは市長が頑張ってください。半分もらえるものはもらった方がいいので、今そういう何かいい話があればぜひ提案していただきたい。

(議長) 委員2から分かりやすくご解説して頂きました。その通りなんですけど、普段の皆様それぞれの立場で感じておられることで結構ですが…次年度の事業を作る大事なチャンスですからぜひ。

(委員3) 古川循環につきましてお願い出来たらなと思って。うちの従業員の方もそういう意見も出ましてお願いしたい。ふるかわ循環の車両が分かりにくいいため、少し目立つように行く場所を車に書いたり。例えば古川病院行きのため、古川病院と大きな字で書いてしまう。一目瞭然でこのバスに乗ればここに行くのだなと場所名などを大きく提示したり、目立つようにラッピングするなどしたらどうか。

(議長) うちの場合、再編計画があって全国的にも数少ない支援を受けれる体制になっている。ご提案がありましたら、後でも結構ですのでぜひお寄せいただきたい。

(委員1) 先ほどのラッピングの関係は一応補助の対象になる。ただし、その場合先ほどの網計画の方にも書いてないと補助の対象になってこない。推進事業の補助ということであれば網計画の変更でそれを加えて頂く事が必要になってくる。議決される際に、詳細はないにしても含めてとっていただく必要がある。

質問ですが、資料25ページにある平成27年度からの5年間の事業実施スケジュールも一応ありまして、来年度30年度の予定されている事業もいっぱいあるんですけど、これらはあまり予算がかからないというので今回の推進事業としてはあげないとされているということではなかったでしょうか。

(事務局) おっしゃられたとおりで30年度として考えている事業について、一番下の方にある評価検証事業が今回挙げている形となっている。

住民意見交換会による協議等については、特段予算等がかからないと考えており、中高生説明会実施といった説明会についてもかからないと考えている。ただ公共交通に親しむイベントの開催というような形で当初の事業の中で入っているが検討が出来ていないため、今回挙げていない状態となっている。

(委員2) 全国的にバス・タクシーにラッピングとか絵だとか案内の所にいろいろ貼ってPRするのはよくやっていて、例に武豊町をお見せするが、町のキャラクターとか路線がどうなっているとか、乗るのが恥ずかしいくらいですが、ものすごく宣伝している。飛騨市さんは高速バスとかでPRされているが、それだけでなく色んな発想で出来ることがある。ちなみに武豊町さんは観光協会さんがお金を出している。この補助の1/2となっているのは国が1/2で、あと1/2はだれでもよいので観光協会1/2国が1/2というのもあり。言いかえれば皆さんが公共交通利用促進の何かやりたいが支援があるといいなと意見を出していただくともしかすると考えている予算の半分で出来るかもと言う意味もある。ここで議論してOKが出ないと実現できないので積極的な意見を言って頂きたい。

(議長) 委員2がおっしゃっていただいたことが、まさしくそういうこと。ひとまず30年度予算編成準備に向けてということでもあるため、追加があればおっしゃっていただいて次回会議に加えてまとめさせていただく。

(議長) 網形成計画の推進事業とうことも書いた採決ということではなかったか。

(委員1) 申請のときに書いてないと対象にならない。

(委員2) 計画の中に位置づけられた内容であればよい。あまりにもかけ離れたものはい

平成29年度第2回飛騨市公共交通会議

平成29年8月18日(金) 13:30
西庁舎3階 大会議室

けない。その理由付けはいろいろ考えられる。

拍手多数により承認

◎その他

1. 平成30年度に向けた検討事項について
(委員4)

<資料6 P68~69>

バスターミナルについて一番の目的、姿が見えない。私達の営業所は乗務員の乗せ換え、バスの接続が頻繁にやっている。他にバスターミナルが出来た場合、そういう問題も発生してくる。バスターミナルがどういう機能をもたらすかどういう形のターミナルかぜひ早めにイメージを示してほしい。

(委員2) ターミナルは、英語で言うと「起終点」。意味合い的に良くない。むしろバスセンターの方がいい。ここから出てここへ戻るではなく、私の意見としてはどのバスも皆この場所に寄る、そこに行けば乗り換えバスが出るという場所。通常はそういう所が起終点であることが多い。営業所が街から離れていても必ずここに寄るという場所が必要である。そこに何か買い物できるとか食事ができるとか待っていられるとか話が出来るところがあるとおいしい。高山バスセンターもそういう雰囲気がある。駅と言ってもいいと思う。全国的にはバスでも駅と呼んでいるところもある。駅的な所を造るのも大事。ちなみに昨日朝倉市の杷木に水害の調査をしてきた。杷木にもバスターミナルがありましてとてもきれいで、近隣の所からバスが全部集まってくる形になっている。まずはそこでボランティアに来られる人も、ここに降りてボランティアセンターがあるので、そこからいろんなところに展開するとか街から集まってきて色々と行動されるという拠点になっている。神岡だと通るところと通らない所がある為、きちんとある所に集中して通るようにした方がいいのかなと思う。

(委員4) バスの路線の集約地点と言う意味合いのみなのか、他の終着を目的とした付帯的な物を造るかどうかで規模も大きさも違ってくるし知的な問題もでてくるのでそのイメージ的なものを早く出していきたいと思う方がいいのではないかな。バスターミナルは起終点のイメージなのでバスが全部集まるそれだけであるのかどうか、ぜひお願いしたい。

(委員2) 集まるだけだと乗務員さんの交代とか供給になってしまっていて、ただ乗り継ぐだけだと乗り換えさせられることになってしまう。せっかくそういう所であれば皆さんが集まる場所なので、何か集まってくるという事を活かした、そこで何か出来るという事を一緒にやった方が当然いい。そういう所でないといけないので、通常は病院だとかショッピングセンターがある所か、有効に活用されていない施設を使ってそこに何か入れていくのも一緒にやるのがいいという気持ちはある。

(委員4) バス業者以外に集約できるものを造るかどうかというところ。

(議長) 神岡に新たに造るのはあり得ない。かねてからの議論で神岡は風呂か病院かという話。客観的に機能的に考えていけば市民病院の所は構造的にもロータリーになっているので、そこに1,2,3,4みたいな番号札がかかっているところで乗り換えが出来る、しかもバローがあって、商店街がすぐ横にあって病院がある、おそらく機能的には多分市民病院が一番広い。ただ他方で委員が言うように運転手やバスを動かすという問題から言うと濃飛バス神岡営業所があり、場所的な広さ行政機能を含めた中心的なイメージとなると神岡振興事務所になる。ターミナルを造ると言う事を考えるのか何のためにバスが使われてきているのかと言う事から逆算して考えてみて、バスを利用する人に着目して、特化して考えてみ

平成29年度第2回飛騨市公共交通会議

平成29年8月18日(金) 13:30
西庁舎3階 大会議室

たときに、私自身もそんなイメージを持っており、ただ構造的にバスが入って待っていたり動けたりする必要があり、そう言った事を考えて、煮詰めていく必要がある。論点としてバスを利用者の視点に立った時にどのいう風にバスが利用されているか結構深く関わってくるのかなと思う。

(委員4) そうなると出札案内も必ず必要になってくる。その部分ははずせない。そういうことを考えると病院とかそういう所は難しいのかなと気がする。バスの集約の中には出札案内が必ず必要になってくる。機械的に案内できるものであればいいんでしょうですけど、そういうイメージ的な物を考えて整備していかないと、ただバスが集まるだけの場所にしてしまう気がするので、その辺も踏まえて早く出して頂きたい。

(委員5) 私はひだまるを運行している。どこでも乗れるよといっても小さいバス停の看板はあるが、田舎のため、バスを待っている5分10分、待つ建物のようなものが出来ないでしょうか。「君の名は」で河合のバス停が非常に脚光を浴びているが、河合の路線はバス停がある。そこでよくおばちゃんやお父さんたちがバスに乗らまいかよ、と語り場があるのでないかと思うため、待合所があればもっと乗ってもらえる人が増えるのではないか。どこでも手を挙げれば乗れます、降りれます、もいいが、そこに来るまでにバス停で語り合いの場所が出来るなら、田舎のじいちゃん、ばあちゃんも語らいの場ができると思う。

(事務局) 今年度流葉スキー場バス停の交通の結節点となっている場所に待合所を設置するよう進めている。それ以外の各バス停につきましては、維持管理とかそういったことも含まれてくるため、地元区さんからの要望とか踏まえて検討していく形で思っている。

(議長) 実際地元区からの要請がある所があります。神岡町茂住など。立てる場所なんかも踏まえて検討して準備整備をやっている。

(委員2) 待合施設はとても大事で、以前から路線バスがある所だとバス会社さんが造ったり、地域で造られたり。結構残っている所もあると思うが、新しく道路が付け加わった所はないことが多いので、良く利用する所、利用したい所からやっていかなければいけない。やはり公民館的な物。既存の施設を使う。場合によってはコンビニに待たせてもらうとか、色々考えてそれによって停留所をつくりかえていかなければいけない。色々な考え方があって思っている。地域の皆さんでどこだと待ちやすいか、どこだったら協力していただけるか、提案して頂いてそれに基づいて変えていくということをしていかなければいけない。ご要望は色々でてくるが、それだけでやっているとなかなか市役所からアプローチしても、事業所からやっても、なかなか進んでいかないので、地域のまさに使われる皆さんと一緒にやるのがとても大切だと思う。逆にターミナルといったのは神岡の中心部の所だと西里とか、あのあたりだと待てる場所がないという事も一つポイントだと思う。商店街で買い物したらちょっと時間があるのでバスが集まってくる所で待って、そこで乗って行ける、そこに人が沢山集まってくるのでコミュニケーションが出来る。知り合いが増える。そういうこともできるのかなと考えている。近いイメージは郡上八幡の城下町プラザが近いかなと。岐阜へ行く高速バスの乗り場でもあるし“まめバス”という八幡の町内をぐるっとまわるバスの乗り場でもある。それから明宝だとかへ行くバスの乗り継ぎもできる。あと観光客の皆さんもお土産も売っているなので、そこで物も買える。当然出札もある。観光協会さんのようなところに委託でやっている。ああゆうのがあると、とても違うなと思う。

(委員6) 冒頭前回の議事録の報告も充分ありました。あの中でも色々課題として残る検討しなければいかんものもかなりあったと思います。報告書で済んでは困る、出来るだけ

平成29年度第2回飛騨市公共交通会議

平成29年8月18日(金) 13:30

西庁舎3階 大会議室

生かしてもらいたいという要望もいくつかある過去にもいくつかあったと思います。充分にそういう部分を取り上げて頂きたい。

今も話に出ていましたけどフリー乗降というのが、この公共交通のうりだと思えますけど、実態を聞いてみてもあまりないと聞いているが、事務局でどの程度把握しているのか。バス停で乗降されるのが多いのか、フリー乗降で乗っているのかと言う実態のことと、特に一番私も古川でするので本当に申し訳ないと思っているが、古川循環についてはどうも空気を運んでいるだけ。どれだけかの人数は利用されている。この利用されている皆さんはどのような形で使ってみえるのかこのことが分かれば教えてほしい。

(事務局) フリー乗降の部分につきましてはうちの方でも正確な数字をつかんでおりませんので分からないというのが本音である。現実的にはフリー乗降だから利用が増しているというふうには認識していない。あと古川循環の方につきましては、少ない状況ですが、やはり先ほど検討の事項にあげておりましたように、病院に特化した形のものにできないかと言うことでアンケートを進めている。そのような見直しをしていきたいとは考えている。

(議長) 実はこの話いろいろ議論していて、全般にそうだが、バスって誰ががなんの為に乗っているか分からない。数は分かるが。私ずっと前から思ってきた。去年は古川でも神岡でもそうだが、風呂と病院だと一旦決めてかかって、それから足りない所を補ってもいいんじゃないかと、言っておりました。かといって計画の見直しも時間がかかるし、来年から全部変えますというわけにはいかない。なかなかすぐにぱっといかない。変えるなら来月からでも変えたいが、そううまくいかないのがこの世界。ゆっくりゆっくり非常にスローテンポでやっていく。今、古川循環については、とっかかりでやるのは非常にいいテーマだと思っていて、逆に病院で聞いてみようか、病院に来た人に何で来たのですか、どうやってきたのですか、バスがあったら何に使うのですかという事を聞いてみよう、そこでいけないという結論が出ればおそらく使わない。次に買い物スーパーでも、なんでもいいんです。そこで聞いてみる。そこで潰していくと結論が出るんじゃないか。実は仮説。仮説でとりあえずやってみようが、実はこのアンケートで、本当は前に委員2が会議で路線には目的があるはずだ、これはどこどこに行く便だと言えるのが一番望ましいという趣旨の発言を私は非常に印象的だった。本当はそういうのがいいんじゃないか、時間によっても違うと思う。この時間だと病院に行くが、この時間だと買い物かもしれない。バスの議論は今すぐにはないが、できるだけ目的をつかめる所へ落としていけば今後の成否を決めるんじゃないか。出来ればそっちの方で議論していきたいのが、今回の病院業者を対象にしたアンケート。項目を少し構うが、そんなことでやってみたいと思っている。全体に仮説として、それらが多くて車がないのでどこに行っても不便でだから公共交通が必要で、全国津々浦々どこの市町に行っても、当てはまるロジックをあてて計画されている気がしてならない所があるものですから、そこはしっかり現実を見て変えていきたい。

(委員5) 今目的と言われたが、たまに俺はバス好きやで飛騨中をまわるんや、一回払えば3時間や4時間まわれるやと言う人がみえた。それで今は地域別にこれはどこ、これはどこと乗り換えなければならない。前の場合、濃飛さんがやっていた時、飛騨に乗って歩きたいんやと言う人で、乗っていると友達が乗られ、目的ではないかもしれないが、楽しく乗っている年配の方々がみえる。そういう一回一回乗り継がなくとも同じバスで病院から買い物から時間に関係なく乗りたい方がみえると思う。そういうコースも何とかいい方法で出来ないものか、計画してもらえればいいかなと思う。

平成29年度第2回飛騨市公共交通会議

平成29年8月18日(金) 13:30
西庁舎3階 大会議室

(議長) 確におっしゃる通りで前はそういう方がけっこうおられた。市の負担額は実質補助抜いて1億7千万年間使っております。遊覧バスとして使ってもらえるのもいいですが、出来る限り、目的に合わせてきちんと効果ができるようにという思いもあるため、逆に遊覧で動きたいという方が1ペースいれば、それも一つの目的であるため、そのへんも含めて考えたい。

(委員2) 議事録の確認をしましたが、あまり意味ない。それをやるよりもちゃんと要点まとめて、これは今回の会議でこういう風に対応しますとか、これはちょっと出来ないで今後からにしますとか、表で書かれたりするといいなと思った。ただ単に前回なにをやったこうなりましたと報告し、これで結構ですと言って、今日はと言っても前の会議で何をやったか全然生かされていない。それはやってもらいたい。

フリー乗降は30年40年くらいの歴史がある。三重交通さん奈良交通さんと言ったところで始められて全国でそうした方が利用が増えると言ってやってきたが、結論としては停留所を置いとけばいいということであって、フリー乗降になったから乗ると言っても、結局自分の家の前とか同じ所で乗るので、そこに停留所を置けばいいという話になる。フリー乗降になったからすごく利用が増えたというのは聞いた事がない。むしろ警察から見ればとんでもない所で停まって危ない。だったら停留所を置いとけばいい。停留所も昔と比べると置きやすくなってきた。この会議でも停留所を置くと協議すれば置きやすくなっている。ということを考えれば私自身はフリー乗降はやらないよりやった方がいい場合もあるが、それをやったから売れるということはない。むしろ大事なそれはそれぞれの停留所に人が集まって、そこでいろいろ話をしたりして、それ自体も一つの目的になるということが大事だと思っている。やはりバスは乗合ですから乗り合う前に人に合って会話して、コミュニケーションして、いろんな所から乗ってきて、色々な人と話をして、それが楽しいからずっと行ったり来たりぐるぐるまわったりする人がいる。市長がおっしゃるように、その為だけに税金をたくさん注ぎ込んで走らせるというのも考えられない。でも実は飛騨市のバスや濃飛のバスでも古川から猪谷まで、ずっと200円300円。この料金で乗れる。昔だとそういうわけにはいかなかったですが、かなり運賃を濃飛バスも含めて全部統一で安くした。乗り継ぎもどんどんできる。一日乗車券もできた。そういう風になっているのでどんどん乗り継いで行けるということ、むしろ皆さんに分かっていただく。実はそのことが分かっていたいていないから、色々考えなければいけないということ。そのことをもっとPRした方がいいなと思った。古川循環については何のために走らせているかという事をきちっと吟味しなければいけない。私が最初に思っていたことは、古川を中心部の横型エレベーター。つまり中心部の中に例えば30カ所くらいどこどこ院だとかどこどこスーパーだとかそういった所に押しボタンがあり、それを押すと運転手さんが来て、どこどこ行くと言うとそこへ行く。つまりエレベーター。そういう風に考えていた。それをやれば、古川駅で電車やバスに乗ってきた方が古川のもちろん歩いてもいいける所だと思うが、歩いて行けると言えばエレベーターだって階段登って行けるわけですね。それでボタンを押して100円200円払わなければいけないが、そこまで行ってくれる。そんなに待たない。そういうものをイメージしていたが、実際できたものはダイヤが決まってるぐるぐる廻っていてというもので、ここのエレベーターなら10分に1回しか来ませんとか1回2回3回全部停まって行きますと言う不順なエレベーター。そうではなく四方八方に動いてそこらじゅうにボタンがあるというエレベーターを想像していた。それだと古川に来た人

平成29年度第2回飛騨市公共交通会議

平成29年8月18日(金) 13:30
西庁舎3階 大会議室

が中心部の色々な所へ乗り継いで頂ける。もちろんその中で動くことにも使える。まわっているが、次から次へといろんな人が。エレベーターはそうですね、次から次へと色々な人が乗って降りて乗って降りて。ずっとやっている。ある程度効率がいいというのが私が考えていたイメージなので、私がこの古川循環を見直すという事を議論するのであればそういうものになって欲しい。病院や温泉が大事というのは全国的にそうだが、もっと考えてみると他にいきたい所がないというのがかなり真実。温泉はまだいいが、病院は医療費を使われるので、かなり持ち出しが出てくる。もちろん病気の方は病院に行ってもらわないとだめだが、お年寄りの方はどこか悪い所があるので、病院に行ったら必ず診てもらう所がある。そういう意味では病院に行くというのは、ある意味安直で色々な方に会えて安心もできるので行っている。私がいろんな所でやっているのは、もちろん病院も行けるようにするが、病院に行かないでただ人に会いたいとか、楽しい場所に行くとか、いうそういう場所を作っていくという事がもう一つ大事。集まれる場所、乗り継ぎできる所というのは何もなくても座っていられる。もちろんコーヒーとかが100円で飲めるとか、手品やったりとか、お話ししたりいろんなことが出来るとか、皆さんに見てもらえる、ある種、憩いの場としてつくっている。そういうのがひとつあると特にいい。病院、温泉、買い物という風になっているといいかなと思う。

(委員7) この4月にこちらにまいりまして、今回2回目だが、この会議の性質が実質的に論点を挙げて議論をする場にしたいというのであれば、ぜひ何が目指していて、どれが課題で、今回これを議論するというのがないと事前に読んでも議論のしようがないところがある。先ほど加藤先生の話で議事録を表形式にしたらどうかという話があったが、とても典型的な例として、表になっていて目指すべき像があって、それに対して少し多様化したものがある、それに対して今何をしようとしていて、空欄のところは空欄があって、具体的に何をやるんだ、何かの会議をした時にこう指摘があったとか、蓄積されていっている感というのが何か一つ様式を作って頂いて、毎回会議をするたびにここの穴が埋まったとか、ここの部分が指摘されたとかわかるようになっていけば、おそらく会議に来る前にここは今回こうされるんだとか、ここは前回言った所だと言う形で分かりやすくなるのではないかなと思う。是非委員4さんがおしゃっていたターミナルのことで事務局の方で考えられる色々な論点があると思う。論点出しだけでもいいので、ぜひこういう場が公共交通会議だとすればこういう風な御意向で頂ければなと思います。

(議長) まったくごもっともですが、実はもう一回きっちりやらなければならないが、どこまで話し合えるのかよくわからないところがある。抜本的に全部御破算にして話し合えるのであれば、全部そうしたい。ところが、ここは決められたからなかなか動かさませんか、あなたたち議論して決めたんでしょ、そんなこと御破算していいんですか、そういう話がある。なのでどこまでいったん議論が認められるのか知りたい。ぜひそう言うことも含めても整理したいと思っている。

(委員1) 飛騨市の場合、再編実施計画というものを作っていたのでそれによって補助が上乗せになっている。それに縛られてしまって柔軟な変更できないのが今の飛騨市の現状かなと思います。もちろんこういった会議を通じて皆さんの意見を含め見直しをしていただき、今回の議題1にある変更につながっていて、それ自体は良い所でもあるが、補助という観点でいくと、補助を上乗せしている理由が5年間かけて飛騨市をこういった形で目指したいという事で、5年計画を作ってそのために補助を上乗せするという仕組みだからこそ、ちょっとややこしい状態になっている現状であります。その中で今回も変

平成29年度第2回飛騨市公共交通会議

平成29年8月18日(金) 13:30

西庁舎3階 大会議室

更して頂けると思うが、今後再編の期間としては続いているので、今後変更がある、色々なやり方があると思うので、そこに向けていつ頃こんな事をしていかなければいけないというのも予定として示して頂かないといけない状況になりつつある。飛騨市の現状も分かっているが、国としても言うておかなければなと思います。

(委員2) 何を変えたらいいかと言ったら、自治だから飛騨市の公共交通をどうして行きたいかだけなので何でも大丈夫。補助は色々言っているが、特に今は先ほどから言ってます地域交通再編実地計画というものを、飛騨市は作ったので、他の自体より余分に補助金がいただける。実は15しかないという大きな理由が、中部運輸局は特に開明的なのでいいが、他の所に行くところの計画を作ったら、5年間路線は変えるなど嘘を言って、議論させないような所がある。僕はそういう所に行って嘘だから聞かなくていいと言うから、嫌がられているけど、どこにもそんな根拠はない。ただ一方で5年間何を変えちゃいけないか、正確に言うと地域交通網形成計画の大事な所については変えてはいけない。地域交通網形成計画には何が書かれているかと言うと、飛騨市は何のために公共交通に対して力を入れているのか。それをどういう風に評価し、どういうふうに変えていくか、ルール。それについては変えては困る。それを実現するために1年間走らせてみたけど、勘違いだとわかったとか、もっとこうしたら良くなることわかった場合、ここで議論して変えればいい。この範疇ならばどんどん変えるべき。そこで何か言われればそこは遠慮されなくていいと思う。むしろ私が思っているのは、言えば何が出来て何が出来ないかはこのあたり(委員1、委員2)でも取捨選択できますから、そこは市長もどんどん言うて頂いて、そこまでいくとちょっとまずいと言うところはうまく段取り付けられる。私なんかは何にも制限はなくて、どんどんここでこの後でも、ここは問題だと思うと、どんどん言うていただければいい。遠慮する必要は全くなくて、むしろ困るのは何にもアイデアがでてこない。私なんかがいっぱい言ってもあくまでも外部の人間なので、むしろ内の方で自分たちでこういうのはやってみたいんだけど、こういうのは変えた方がいいんだけどとか言うていただくのが、それに対してこれだったらこれ使ってできる、これはちょっと無理筋だからちょっと待った方がいいと言える。是非そういう風な形でお願いしたい。

(議長) 私も国交省にはしょうちゅう行っていますので、必要があれば直接何が使いやすいか、何が使いにくいのか、15しかない所の実例ですので、国にも実情を報告して、またアドバイス頂きながら良くなるのが一番。いつも言うが、公共交通って早く行ける、安く行ける、直接行けるが皆にとって一番いいんだと思う。早い安い旨いじゃないが、早い直接安いのはこれが一番いい。できるだけその目的をしっかりと見極めて議論をやっていきたいと思う。引き続きお願いしたい。他に意見も無いようなので以上を持ちまして本日の公共交通会議を終わらせて頂きます。ご協力ありがとうございました。